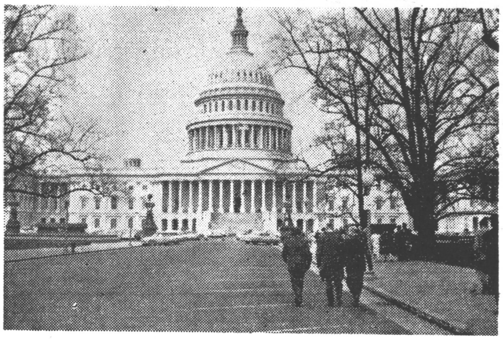
CSM* こぼれ話

仁　科　伸　彦**

ワシントンの4月といえば観光シーズン，どこのホテも超満員，市内は，各州から集まる修学旅行，観光客で人の波である．



第1図　国会議事堂を見学に行く各国代表

WMO総観気象委員会の第3会期の会合は，3月26日から4月20日まで国務省の中で開かれた，忙しい1カ月の滞在中にこの目や耳で拾ったこぼれ話をいくつか紹介しよう．

サイシン　よいです

3月24日午前10時に羽田を離れた日航機宮島号は，途中ホノルルへ寄って，同日午前9時にはロスアンゼルスに着いた．太平洋横断がマイナス1時間である．

ロスアンゼルスの日航の案内所で，美しい二世の娘さんが，1人の年輩の日本旅客と日本語で応待していた．

「夕方までまだ時間があります．サイシンよいです」と彼女は，くりかえし話しているのだが，彼には，サイシンがどうしても最新と聞えてしまって，観光の意味にはとれないらしい．これからさきの1カ月を考えると，けっして人ごとではないような気がした．

タクシーの合い乗り

大陸を横断して，その日の夕刻には，ボルチモア空港についた．ワシントン行きのリムジンの中で，隣に座ったアメリカ人はよく話す感じのよい人だった．車が市内にはいると，やがて左前方に今夜から泊るホテルが見えた．終点は，ホテルから2～300メートルの所だった．

終点には，数台のタクシーが待っている．さっそく，その中の1台に乗ろうとする私の後から，誰かが大声で近寄ってくる．思わず振りむくと，先ほどのアメリカ人である．

「あなたのホテルは，すぐそこだから歩いてゆきなさい」といっている．荷物が重いからタクシーでゆくのだといっても，むりに引きとめる．

「それなら，このタクシーに乗りなさい」とさっきとは別のタクシーをすすめた．気がつくと，私のトランクをもうその運転手に渡してしまっている．しかたなく，その車へ乗ることにしたら，もうすでに2人の先客が乗っている．

合い乗りをすれば40セントですむところを，1人で乗って10セント余計に払う私の不合理を彼はだまってみていられなかったのであろう．

それよりも，私は，見も知らぬ人達とタクシーに合い乗りすることがまことに奇妙に感じられた．しかし，考えてみると，合い乗りすることはお客にとっても運転手にとっても合理的である．この合理的な合い乗り制度が合法的とされていない日本の場合の方が，むしろわからないような気もしてきた．

ラジオが温度計

米軍のFEN放送で，毎正時の天気予報で，必ず現在の気温を知らせている．どうしてそんなに現在気温が必要なのかよくわからなかった．

ワシントンの始めの数日は，暖かい日がつゞいた．ある朝，いつものとおり仕度をして，ホテルの玄関を出てみて驚いた．ふるえるように寒いのである．また戻っていま預けたばかりの鍵をもらい，エレベーターが降りてくるのをジリジリしながら待ち，5階の部屋を鍵であけ，少し厚いシャツをトランクからとり出して大急ぎで着換えをしてから，スプリングを着るという始末．朝の貴重な時間を，こんなことで労費したため，その朝は，会議にあやうく遅刻するところであった．

部屋の中では外の温度はわからないから目が覚めると，まずラジオのスイッチを入れ，顔を洗いながらでも，現在気温の放送を聞き逃さないようするという仕事が，翌朝から増えたことはいうまでもない．

ワシントンの気象学校

その夕刻，ホテルの売店の人のよさそうなおぢいさんと親しくなつた．私がウェザーマンだというと，聞きもしないのに，売物の地図を拡げて気象台の場所を教えて

---

* Nobuhiko Nishina 気象庁予報課

* CSM（総観気象委員会）は，WMO（世界気象機関）に属する八つの専門委員会の一つである．綜観気象に関する予報法，通報形式，通信方法等およびその運用について，世界的に調整することが主な任務である．

第2図　会議場

くれたりしていた．その中に，彼は「ウェザー・スクル」といった．ワシントンに気象学校があるとは聞いていなかった．これは，是非知っておく必要がある．早速「ウェザー・スクールはどこか」とたずねた，すると玄関の方を指さして，もう一度はっきりと「ウェザー・スクール」と答えた．さては，このホテルの近くにあるのかなと思っている中に，やっと気がついた．「Weather's cool」，「寒いですね」といっていたのだ．それなのに，「どこが寒いか」たずねるまぬけ者に，おぢいさん，まことに親切に外を指さして「外が寒い」と教えてくれたわけである．

国務省のドアー

会議場のある国務省は，1年ほど前にできたなかなか立派な建物で，なにからなにまでまことに便利にできている．たゞ1つ悪い点はドアーを開けるとき取手に手をかけると，ビリッと激しい電撃を感ずるのである．

プラスチック製のドアーについている金属製の取手は，完全に絶縁されており，空気が乾燥しているので，いったん空中電気を帯電すると，放電しないのである．ある日会議が休けけいになって，いそいで扉の所まで行ったら，私が一番先に扉を開けるはめになった．気持がわるいからちょっとためらっていたら，クッチェンロイター氏がやってきて，「待ちなさい．私が開ける」といいながらポケットから大きな鍵束を出し，それで2～3回取手をたゝいてから得意そうに開けてくれた．

指先で軽く2～3回たたいてから取手をつかんでいる代表もいた．だれかが開けたすぐ後ならなんともないのである．ドアーの前ではそばにだれかいるときは，なるべく謙譲の徳を発揮するのが一番利口なのである．

日本通の国務省のお役人

昼休みに，会議場の前の休けい室のソファーにぼんやり腰をおろしていたら，とつぜん流暢な日本語で話しかけられた．ふと見ると見知らぬ一人のアメリカ人である．「私は，国務省にいるウィッケルです．ちよっと教えてください．CSMのSynoptic Meteorologyは，日本語でソーカン気象学といいましたネ．ソーカンとはどんな字でしたかネ」私は，紙に書いて示した．「これで日本人によく意味がわかりますか．あまりよい訳語ではないと思います．あなたが，もっとよい訳語を発見すべきですね」とたてつゞけに，まくしたてられてしまった．しかし，なんといっても日本語で思う存分話のできることは，嬉しかった．

彼は，戦後2～3年日本で勤務したことがあるだけというのだが，なかなか豊富な語彙のもち主である．たとえば，「たった一人で3つの委員会を持っては．アブハチトラズになりますね．しかし，おおいにがんばってください」「気象衛星では，日本はバスに乗りおくれない

第3図　タイダルベーズンの日本の桜

ようにすべきですね」「あすの午後3時からダイダルベーズンのほとりで桜まつりがありますから，会議をちょっとエスケープして，のぞいていらっしゃい」.

会期も終りごろのある日，キャフェテリヤで昼食をともにしながら，彼はこういっていた.「私は，国務省を訪問する外人に通訳を世話をする責任者だが，日本からは来月(5月)だけで30人近い人が国務省を訪問する予定になっていて，とても忙しい．ワシントンに数日立寄る日本の人達の中には数人から数十人ぐらい一諸にくる人達もあるが，そんなに多くの人を渡航させることのできる日本が，CSMのような重要な国際会議に一人しか代表を出さないのは，おかしい．あなたは政府にもっとよく説明すべきですね」.

ハリケーン，ニューヨークを襲う

昼食は，毎日，国務省のキャフェテリヤでとるのである．ある日，テーブルの向う側に，国務省の役人らしい話ずきの老人が坐った．定石どおり，天気の話，国籍しらべ，旅行目的と話がすゝみ，私がCSM会議にきている日本のヴェザーマンであるとわかると話題を日本の台風やアメリカのハリケーンにうつしてきた．なかなか話題の豊富なおぢいさんである．今までの経験によると，たいていの人が雑談の終ごろには「日本へはいつかえるか」とか「帰りには，どこへ立寄るか」とか聞くのである．もうそろそろ質問が出るだろうと思っていたら，はたしてそのとおりにきた．まってましたとばかり「今月末ごろニューヨークへ行くであろう」と答えた．すると彼は目をまるくして，ちょっと大げさに驚いた表情をしたがすぐ笑顔になって「すみませんでした．私の話し方がよくなかった．私は，あなたに台風が日本のどこへ行くかとたずねたのです．ハリケーンは，アメリカの東の方から襲うのだが」とゆっくりと質問をしなおした．

思わず二人で笑ってしまった．

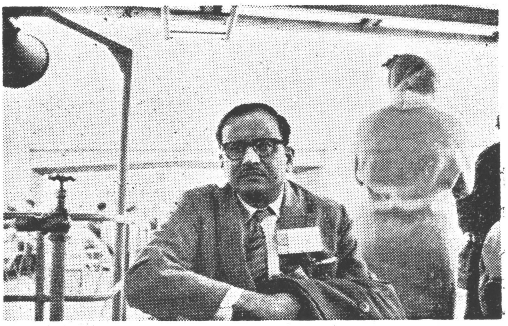
別れぎわに彼曰く「ハリケーンが今月末ごろニューヨークを襲うとウェザーマンが予報したので，とても驚いたよ」

第4図　リンカーン記念堂を見学する各国代表

CSMイーティング

会期も終りに近づくと，深夜会議が何度も開かれる．このような場合は，午後6時から2時間夕食のための休憩をして午後8時から再開されるのである．

国務省のキャフェテリヤはもう閉っているので，近くの1軒のレストランは，CSMの代表で満員になってしまう．だれかが大声で「CSMミーティングがここへ移つたようだ」といった．私は相手に通じるかどうか，自信はなかったが小声で「これは，CSMミーティングではない．CSMイーティングである」といってみた．同じテーブルの印度のセン代表がこのつまらないだじやれをきいてえらく気に入つたらしく，誰れからとなく，つかまえて，日本代表はうまいことをいうと吹張してまわっていたのには恐縮した．



第5図　印度のセン代表（新CSM委員長）

フジヤマからトランヂスターへ

会議のときや仕事のときはしかたがないが，パーティーや昼休み，遠足のときなどには，話をもちかけるのがおっくうなため，こちらから話をもちこんだことは，ほとんどない．それでも，会期中をふりかえって見ると，ずい分多くの国の人たちが，話しかけけてきて，顔見知りになれた．始めの中は，やはり，世界の気象事業における日本の位置がそれだけ認められているためかと，少しうぬぼれていたが，よくよく考えてみると，皆が私に話しかけてきた話題の大部分は日本製のカメラとトランヂスターのことであった．日本製といえば，ホテルの売店のおぢいさんも自分の店にある土産物を一つ一つ見せて，これも日本製，これも日本製と得意そうにお世辞をいっていた．

市内の店でも手頃な土産物とおもちゃは，ほとんど日本製といってもよい．とにかく，海外の人の目に映る日

本の映像が，フジヤマ・ゲイシヤガールからカメラ・トランヂスターへ，変ってきていることを知って何よりも力強く思えた．

長官の手品

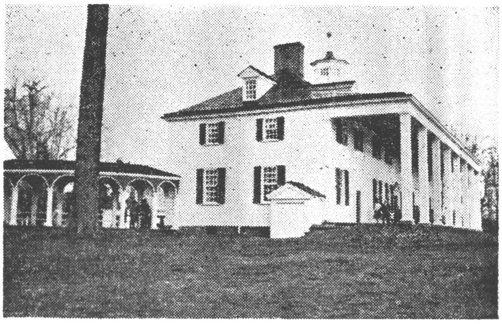
3月27日夜は，アメリカ代表の招きによるリセプション，28日夜は，ファクシミリの会社のディナーパーテー，29日夜は，Suitland の気象中枢見学，そして，31日の土曜日は，午前中市内観光，午後マウント・ヴアーノン見物と，会期の初めのころは会議以外のプログラムもなかなかの強行軍であった．これでお互に親しくなるという計画とも思われた．

3月31日市内観光が終って，全員がポトマツク河の傍にある魚料理で有名なレストラン・ホーゲートで昼食をとった．私のテーブルには，ドイツのウュシュトフ氏，インドのセン氏，スエーデンのシェファー女史の四人．各自好きな料理を注文するのだが，私は，さっぱり料理の名前がわからない．シェファー夫人が「このデンマークブライドがとても美味しい．私も大好きだけど量が多すぎる．しかし，あなたは，これをお選びなさい」とすいせんした．やがて，皆に料理が運ばれてきたら，シェファー夫人は，全部を一度り見渡してから「あなたが一番よい料理を選んだ」と私の料理を彼女が自分で選んでおきながら，自分でほめているようでおかしかつた．三人ともよくしゃべるが，各国の料理の話などは，歯がたたない．しかし，日本人の私にもわかる話を適当にまぜたりして座をもたせることは，みんななかなか上手である．

インドのセン氏は，和達長官のカードの手品の話をはじめた．「すぐ目の前でやるのだが種が全くわからない」と手振り面白く皆に説明する．感心して聞いていた皆が私に向って「あなたも手品はうまいだろう」と聞いていた．とにかく長官の手品も国際的に有名になつてきたようである．

そのフィルム買いたい

その日の午後はポトマック河の遊覧船で，ワシントンの家と墓のあるマウントバーノンを訪れた．



第6図　ワシントンの家（マウントバーノン）

ワシントンの家の中を見ている中に，急に天気が悪くなり，雷を交じえた強い雨が降りだした．傘などもっているものはほとんどない．船の出る時刻がせまってきたので，やむをえず，皆雨の中を船つき場まで急いだ．

世界中のウエザーマンが雨に濡れている光景は，ちよつと珍らしい光景である．CSM委員長のクッチェンロイター氏も雨の中をゆうゆうと歩いていた．濡れながら一足先に着いたフランスのミトナ氏と小生が，そこをパチリと撮つたら，クッチェンロイター氏のユーモアたつぷりの言葉が面白かった．「そのフィルム買いたい．いくらで売るか」．

第7図　雨に濡れるクッチェンロイター氏

“Cosmos” 誌創刊さる

地学の普及誌 “Cosmos” が9月から，気象協会より発行された．これは来年度より高校において地学が必修課目となることを考慮して，気象，天文などの部門だけにとらわれず，広く地学一般の事項を内容として出発したものである．創刊号の巻頭は，読者と共に本をつくってゆくというたて前から台風についての座談会にあてられているが，おおむね成功しているといえよう．A5版の小冊子にかなりの内容がつめこまれている感じだが，同誌の今後の使命と役割を考えて，今から増ページを要求しておこう．